

株式会社東京精密 2018年度(2019年3月期) 決算説明会

2019年5月14日

*

◆ 将来の事象に係わる記述に関する注意

- 本資料に記載されている情報は、現時点で入手可能な情報をもとに、当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいております。
- これらは、市況、競争状況、半導体業界ならびに自動車関連業界等の世界的な状況を含む多くの不確実な要因の影響を受けます。
- 従って、今後の当社の実際の業績が、本資料に記載されている情報と大きく異なる場合がありますことをご承知おき下さい。

◆ 表記データ・用語について

- 注記がある場合を除き、半導体製造装置セグメントを「半導体」、精密計測機器セグメントを「計測」、また親会社株主に帰属する当期純利益を「当期純利益」と記載します。
- 記載されている金額や比率の情報は、注記がある場合を除き、億円またはパーセントによる要約表示を行っております。その為、内訳の計が、合計と一致しない場合があります。

◆ 監査について

- 本プレゼンテーション資料は、監査法人による監査の対象外です。

次第

- ◆ 2018年度 業績説明
- ◆ 中期目標 初年度総括
- ◆ 中期目標 今後について
- ◆ 2019年度業績予想
- ◆ 質疑応答

2018年度 通期業績



単位：億円(配当除く)	2017年度	2018年度	
	通期実績	通期実績	前期比
売上高	882	1,015	+15%
半導体製造装置	595	691	+16%
計測機器	287	324	+13%
営業利益	173	202	+17%
半導体	113	132	+17%
同率	19%	19%	
計測	60	70	+17%
同率	21%	22%	
経常利益	173	208	+20%
当期純利益	127	147	+15%
1株配当	92円	125円(含 記念配当)	+33円

➤ 2018年度は、両事業とも堅調、創業来最高の売上および利益となった

2018年度 第4四半期業績



単位: 億円

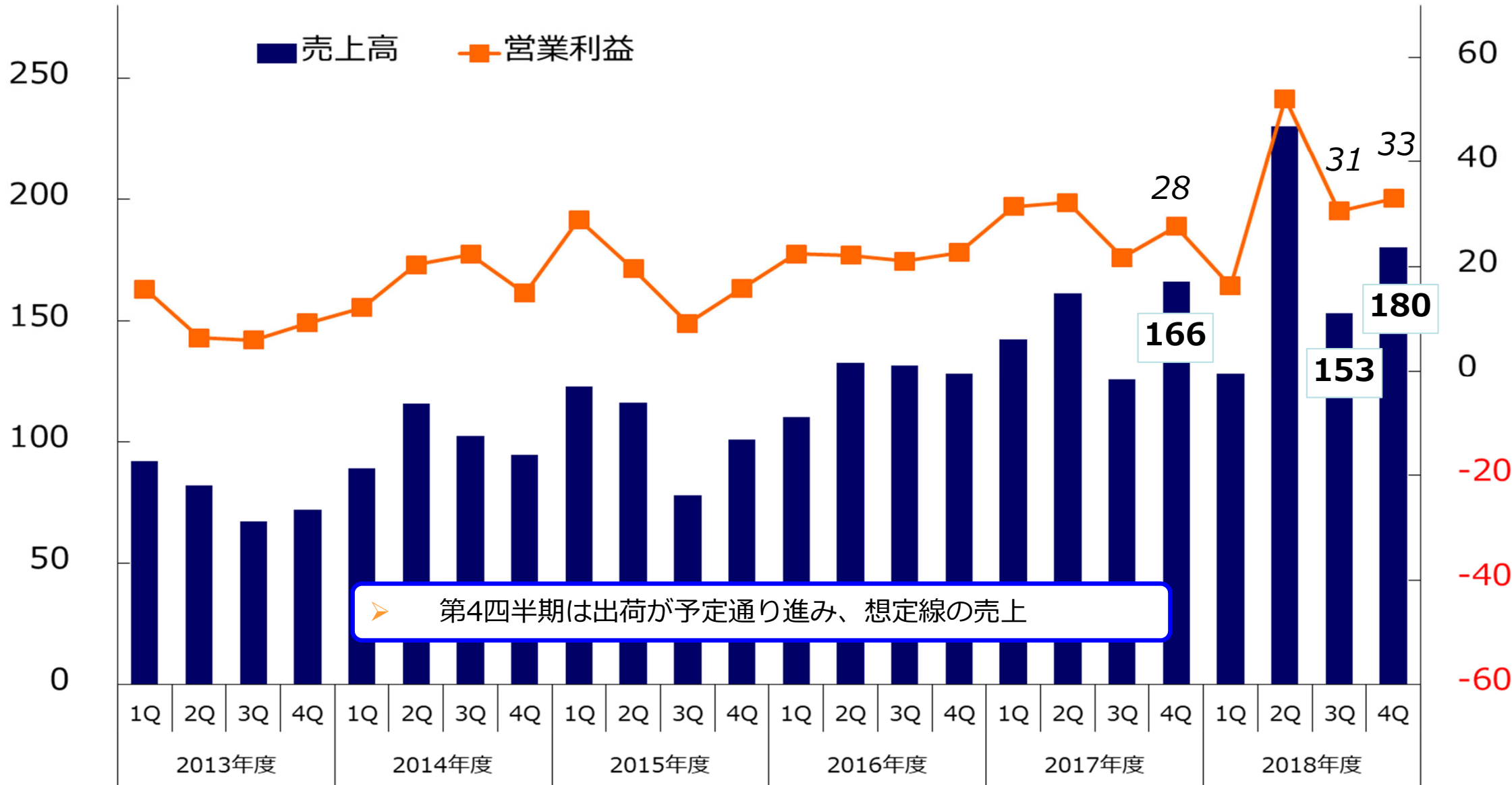
	2017年度				2018年度					
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	前 四半期比 Q/Q	前年 同期比 Y/Y
売上高	199	238	192	253	198	314	237	266	+12%	+5%
半導体製造装置	142	161	126	166	128	230	153	180	+18%	+8%
計測機器	57	76	67	87	70	84	84	86	+2%	-1%
営業利益	40	49	36	48	31	71	48	52	+9%	+9%
半導体	31	32	22	28	16	52	31	33	+8%	+19%
同率	22%	20%	17%	17%	13%	23%	20%	18%		
計測	9	17	14	20	15	19	17	19	+10%	-5%
同率	16%	22%	22%	23%	21%	23%	21%	22%		
經常利益	41	49	36	46	34	74	48	52	+9%	+13%
当期純利益	29	35	26	38	26	53	35	33	-6%	-13%

半導体 - 売上高, 営業利益



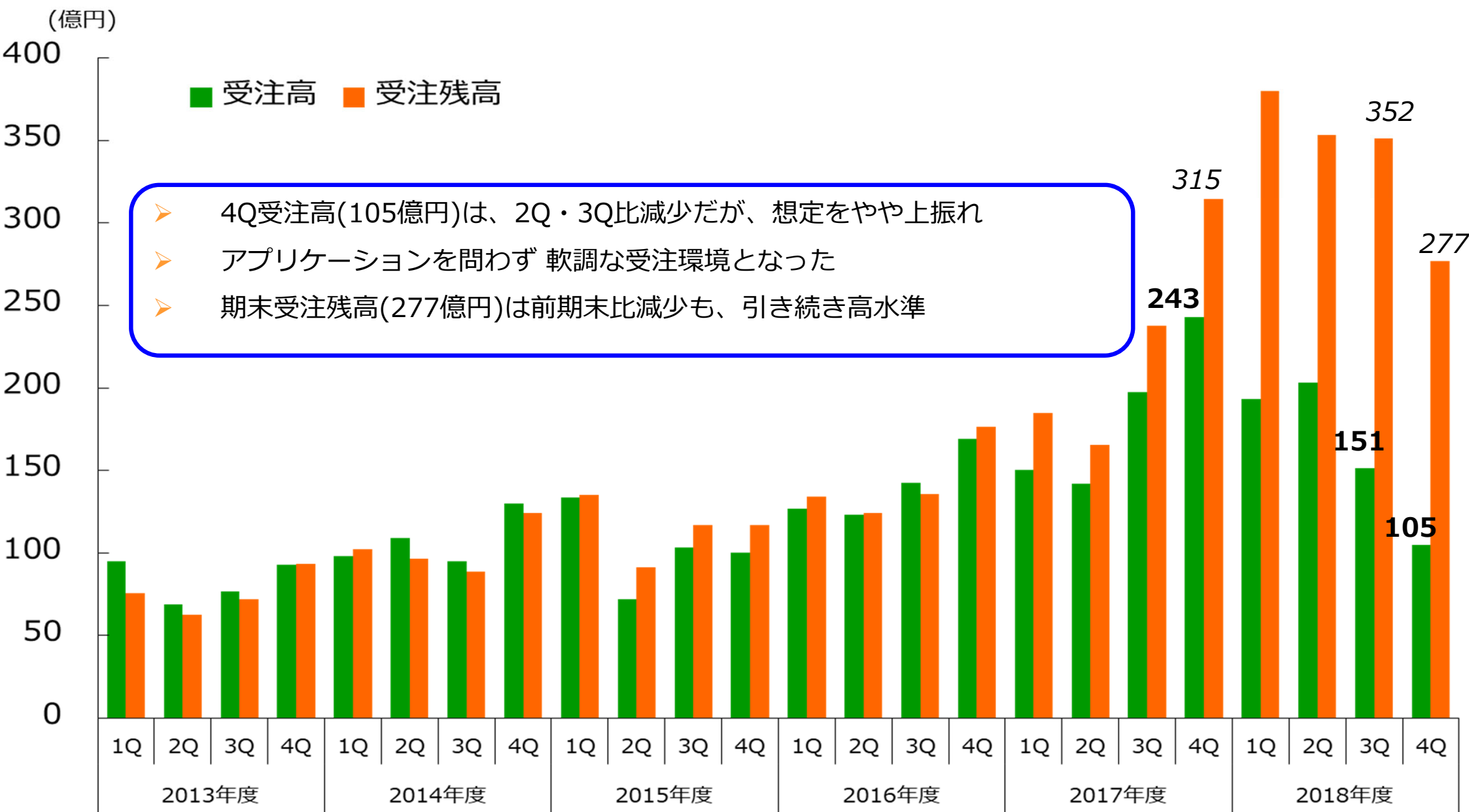
売上高(億円)

営業利益(億円)

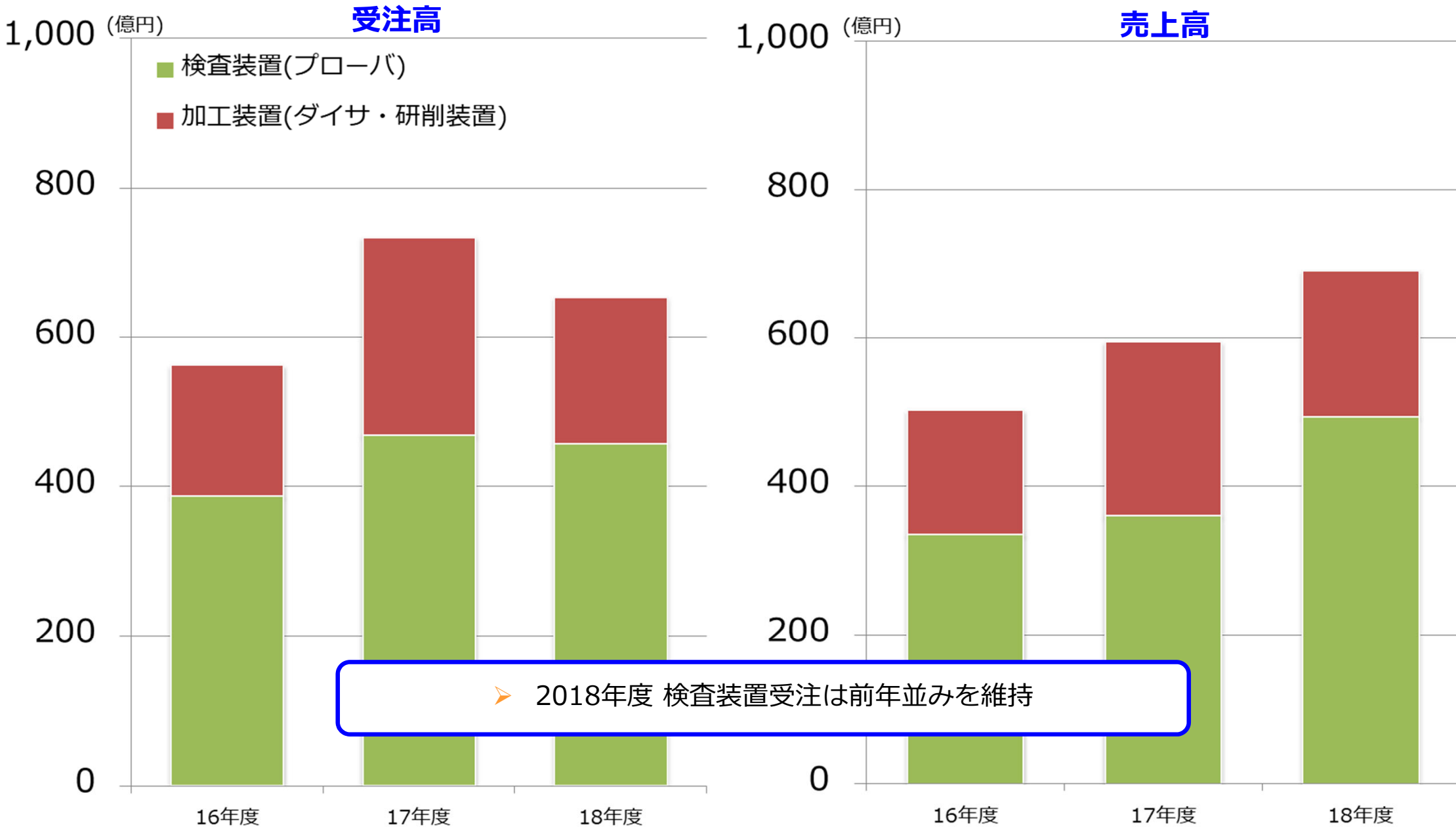


➤ 第4四半期は出荷が予定通り進み、想定線の売上

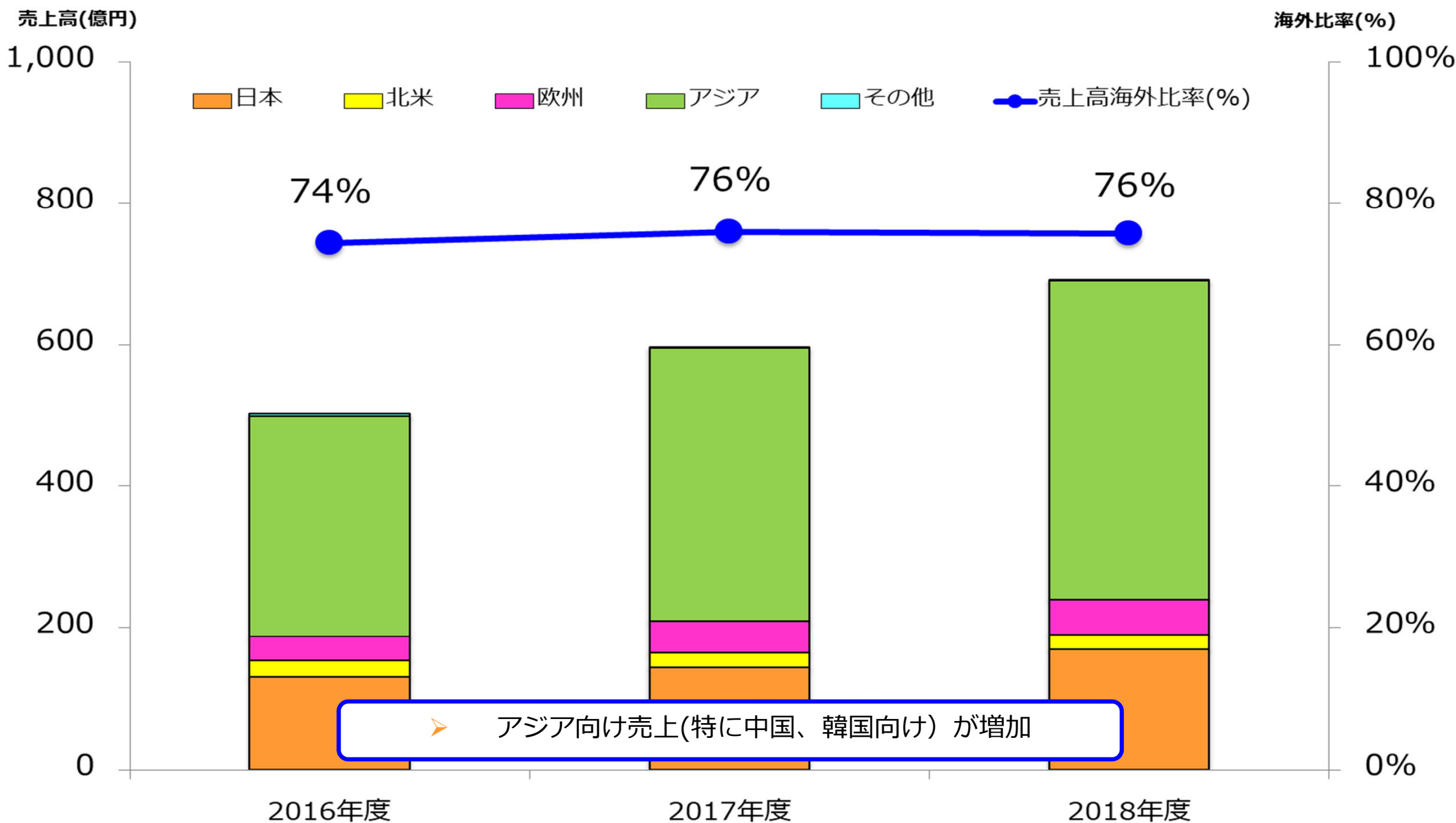
半導体 - 受注高, 受注残高



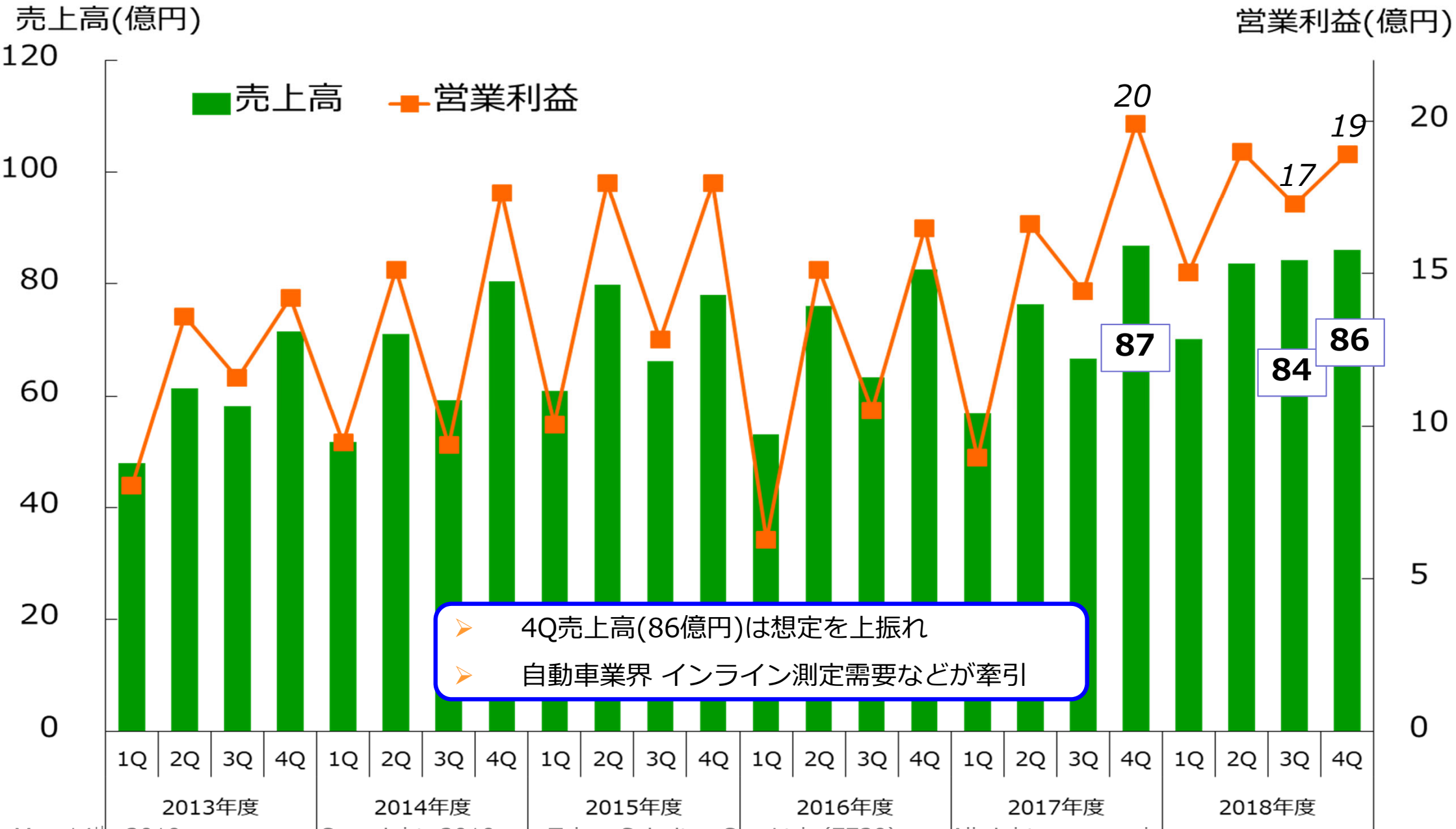
半導体 - 製品別動向



半導体 - 地域別売上高



計測 - 売上高, 営業利益

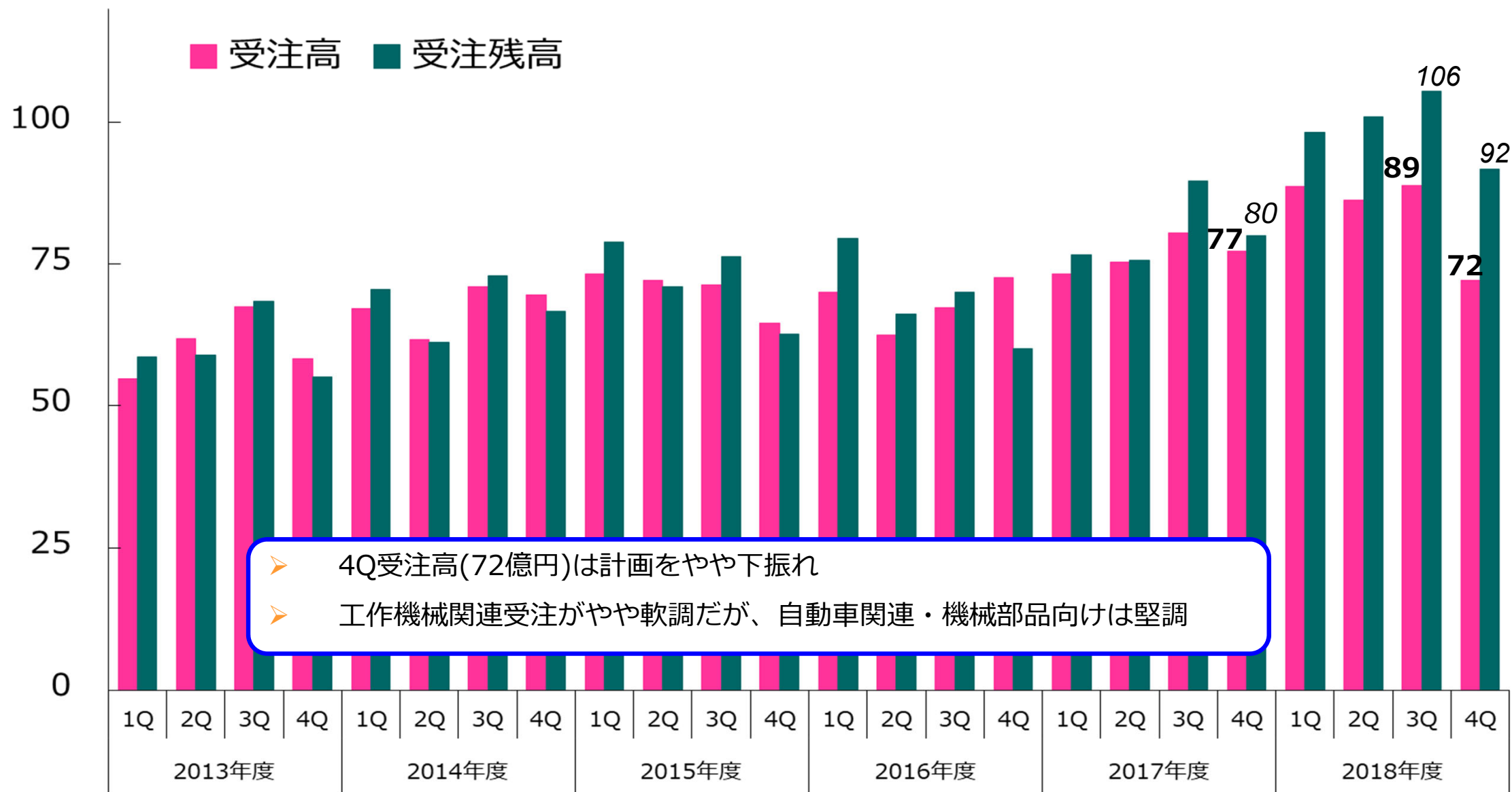


計測 - 受注高, 受注残高



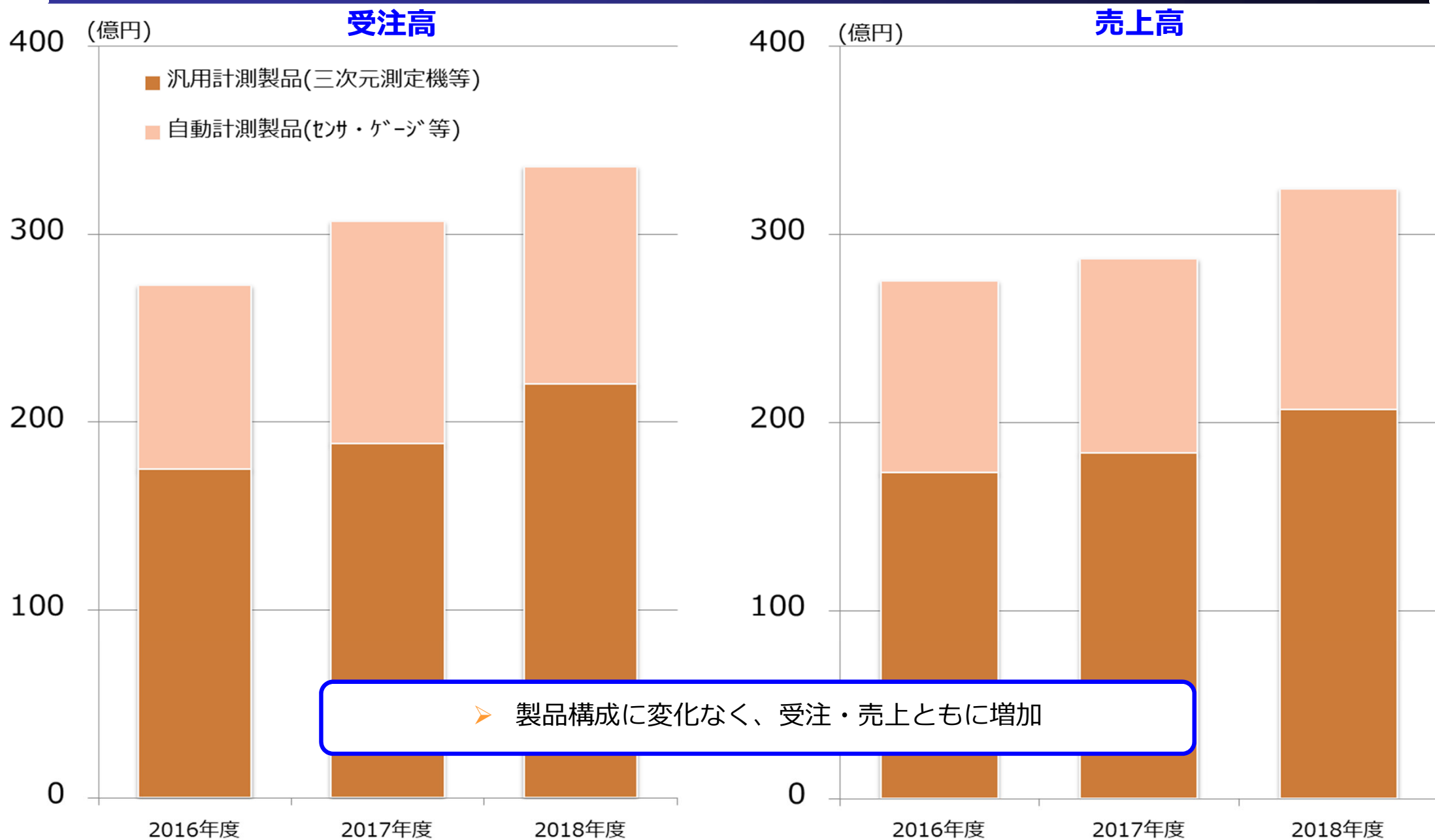
(億円)

■ 受注高 ■ 受注残高

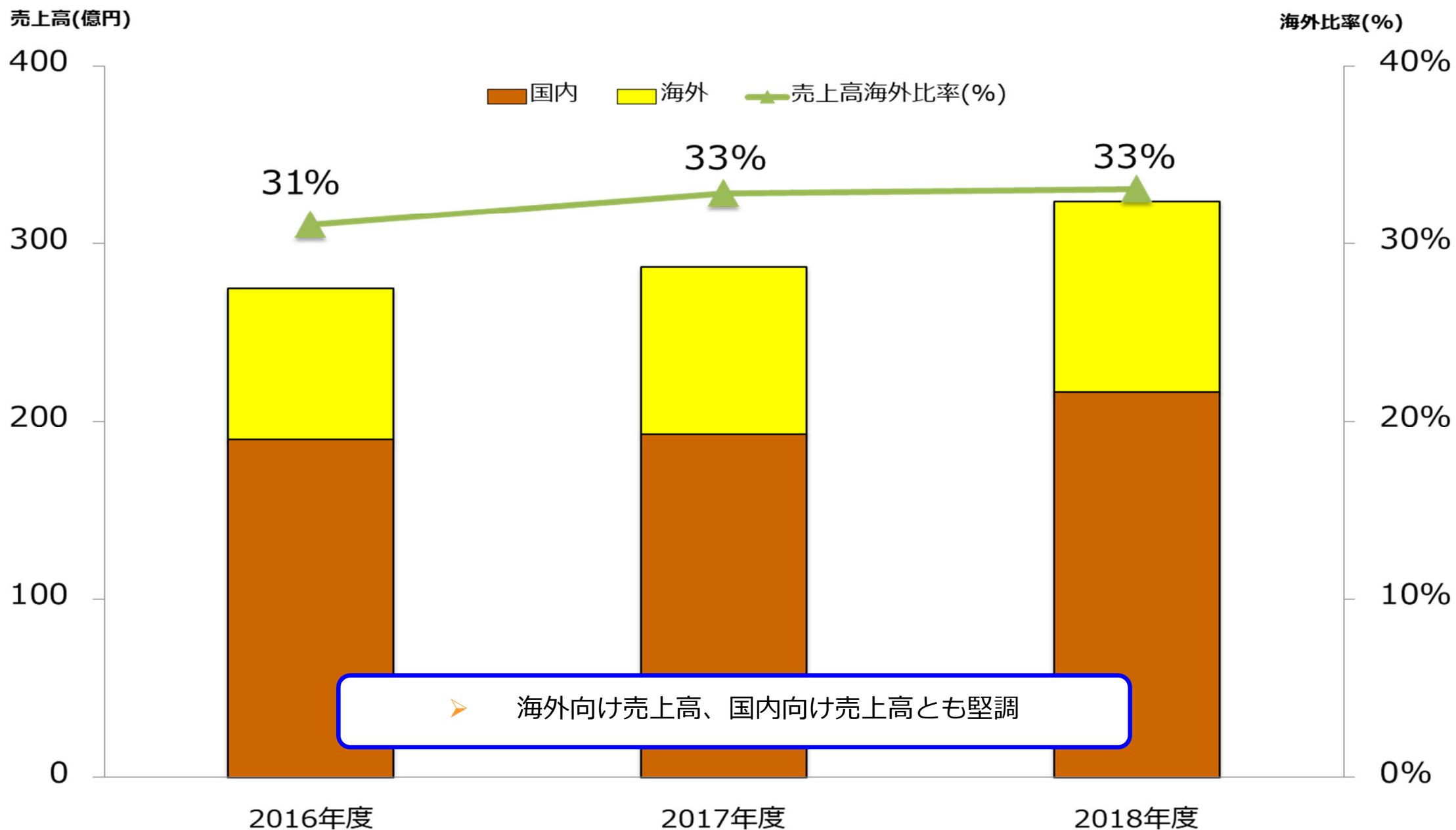


➤ 4Q受注高(72億円)は計画をやや下振れ
 ➤ 工作機械関連受注がやや軟調だが、自動車関連・機械部品向けは堅調

計測 - 製品別動向



計測 - 地域別売上高



貸借対照表



資産 (億円)	18/3末	19/3末	増減	負債/純資産 (億円)	18/3末	19/3末	増減
現預金	372	415	+43	支手・買掛金, 電子記録債務	219	263	+45
受取手形・ 売掛金・ 電子記録債権	334	361	+27	短期借入金, 1年内長期借入金	13	33	+20
在庫	223	300	+77	その他	96	113	+17
その他	20	24	+4	流動負債計	328	409	+81
流動資産計	950	1,101	+151	固定負債計	7	92	+85
固定資産計	379	475	+96	負債計	335	501	+166
資産合計	1,329	1,576	+247	純資産	994	1,074	+80
				負債・純資産合計 (内有利子負債)	1,329 (13)	1,576 (114)	+247 (+101)

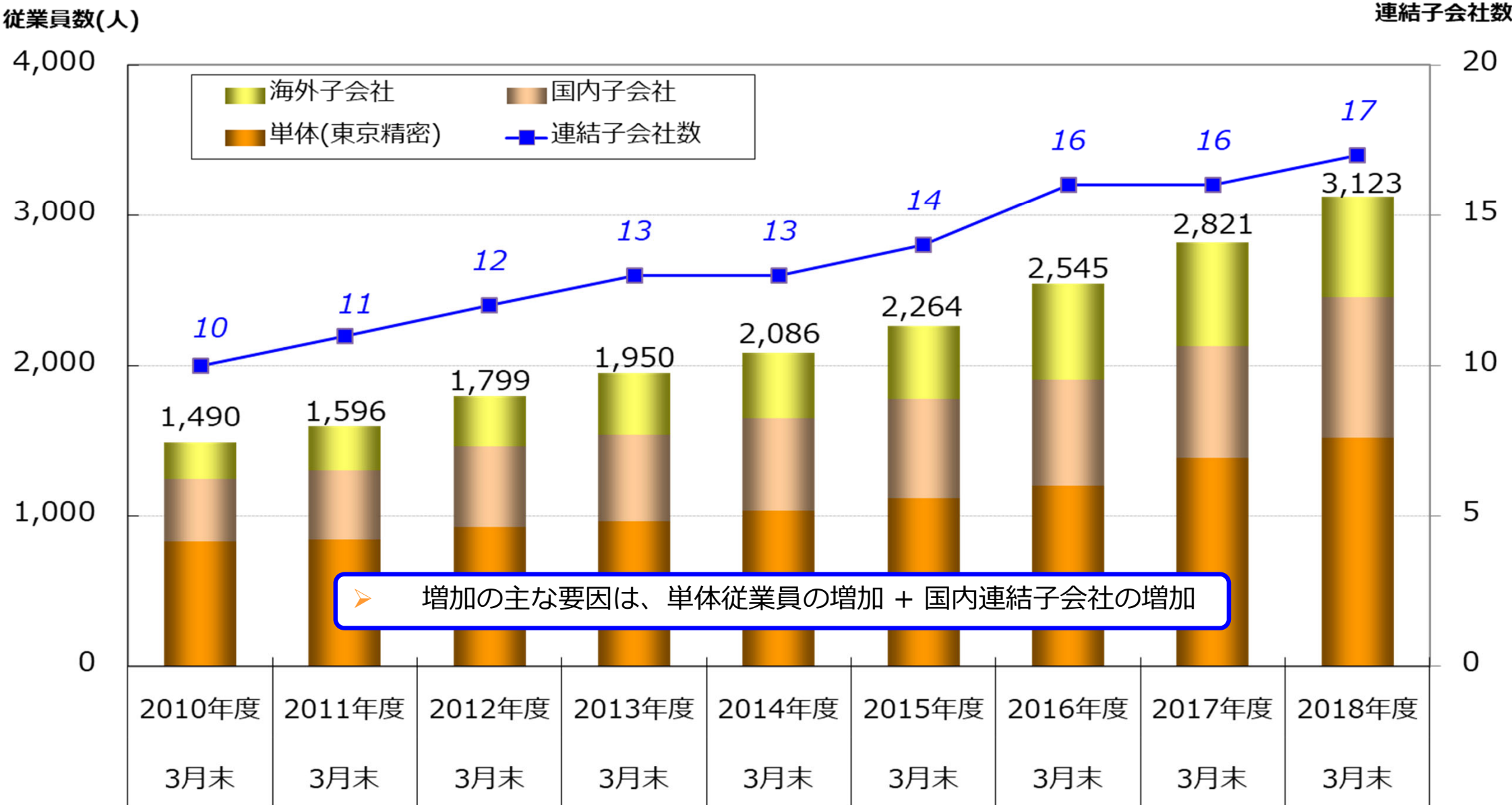
キャッシュフロー



単位：億円

		2016年度	2017年度	2018年度
現金等 期首残高		273	338	371
営業活動	税引前・償却前利益	169	200	233
	(売上債権+在庫) - 仕入債務	- 1	- 42	-56
	納税	- 36	- 59	-58
	その他	- 4	11	10
小計		128	109	129
投資活動		- 35	- 46	-139
フリーキャッシュフロー		93	63	-10
財務活動	社債・借入	- 3	- 0	100
	株式・配当金、他	- 26	- 31	-45
	小計	- 30	- 32	54
増減額(含 換算差額)		+ 65	+ 33	42
現金等 期末残高		338	371	413

従業員数推移



注) 上記従業員は、正社員と期末時点の臨時従業員の単純合算

次第

- ◆ 2018年度 業績説明
- ◆ **中期目標 初年度総括**
- ◆ 中期目標 今後について
- ◆ 2019年度業績予想
- ◆ 質疑応答

長期指標：ROE10%以上

中期目標：営業利益220億円
(2020年度迄に)



売上拡大
(1,100億円を目指す)

両輪にて達成



利益率向上
(営業利益率20%以上を目指す)

技術面

製品競争力強化、対象市場拡大

生産面

**生産キャパシティの拡充
効率改善（自動化・省人化）**

利益率改善

**ERP導入による情報共有化促進
サービス（フィールド、エンジニアリング）、消耗品売上の拡充**

中期目標達成



初年度は順調な進捗

定量面



2018年度ROE 14.4%, 営業利益 202億円

技術面



X線CT装置、充放電試験システムなどの展開

生産面



日野・土浦新工場着工、美山工場の稼働

利益率
改善



ERP稼働開始

初年度の総括(設備投資)



キャパシティ拡充(半導体：日野工場、美山工場)

- 用地・建物取得によりキャパ拡充
- 賃貸工場(美山)も活用中



キャパシティ拡充(計測：土浦MI棟)

- 新棟(MI棟)着工
- 2020年度稼働予定
- 各種効率化・改善策を適用予定



MI: *Monozukuri* Innovation

効率化

- ERP 稼働開始

アプリ対応強化 (台湾新アプリセンター設立)

- 予定通り進捗中
- 2020年度稼働予定

アプリ対応強化 (大阪アプリセンターリニューアル)

- 予定通り進捗中
- 2019年度稼働予定

Environment(環境)

- 環境考慮製品 : LCAを考慮した環境配慮型製品の開発⇒100%対応継続 (新製品)
- 温暖化防止 : CO2排出量の削減⇒ 原単位 電力使用量の削減
- 資源削減 : 水、廃棄物 ⇒ 原単位の水使用削減、リサイクル率95%以上



Social (社会)

- サプライチェーン : ESGの強化改善を実施⇒ サプライヤCSR策定
- 女性活躍推進活動 : 女性が活躍できる会社へ⇒女性従業員による社内活動→規程改訂

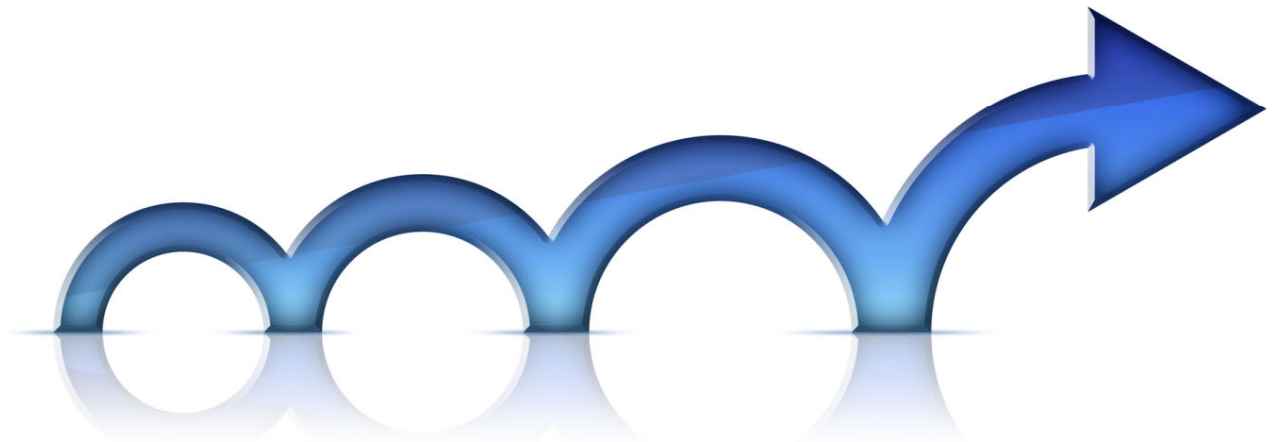
Governance(ガバナンス)

- グループ行動規範 : 教育、浸透、見直し⇒HP掲載,社員教育, グループ各社展開
- コンプライアンス : 遵守体制の構築、教育、見直し⇒遵守体制構築、社員教育実施

次第

- ◆ 2018年度 業績説明
- ◆ 中期目標 初年度総括
- ◆ **中期目標 今後について**
- ◆ 2019年度業績予想
- ◆ 質疑応答

- **2019年度 半導体の大きな成長過程の踊り場**
- **計測は安定成長**
- **2019年度は「準備の年」**
- **財務健全性を維持しつつ、成長・開発投資は継続**



世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長してゆく

理念を示すモットー:

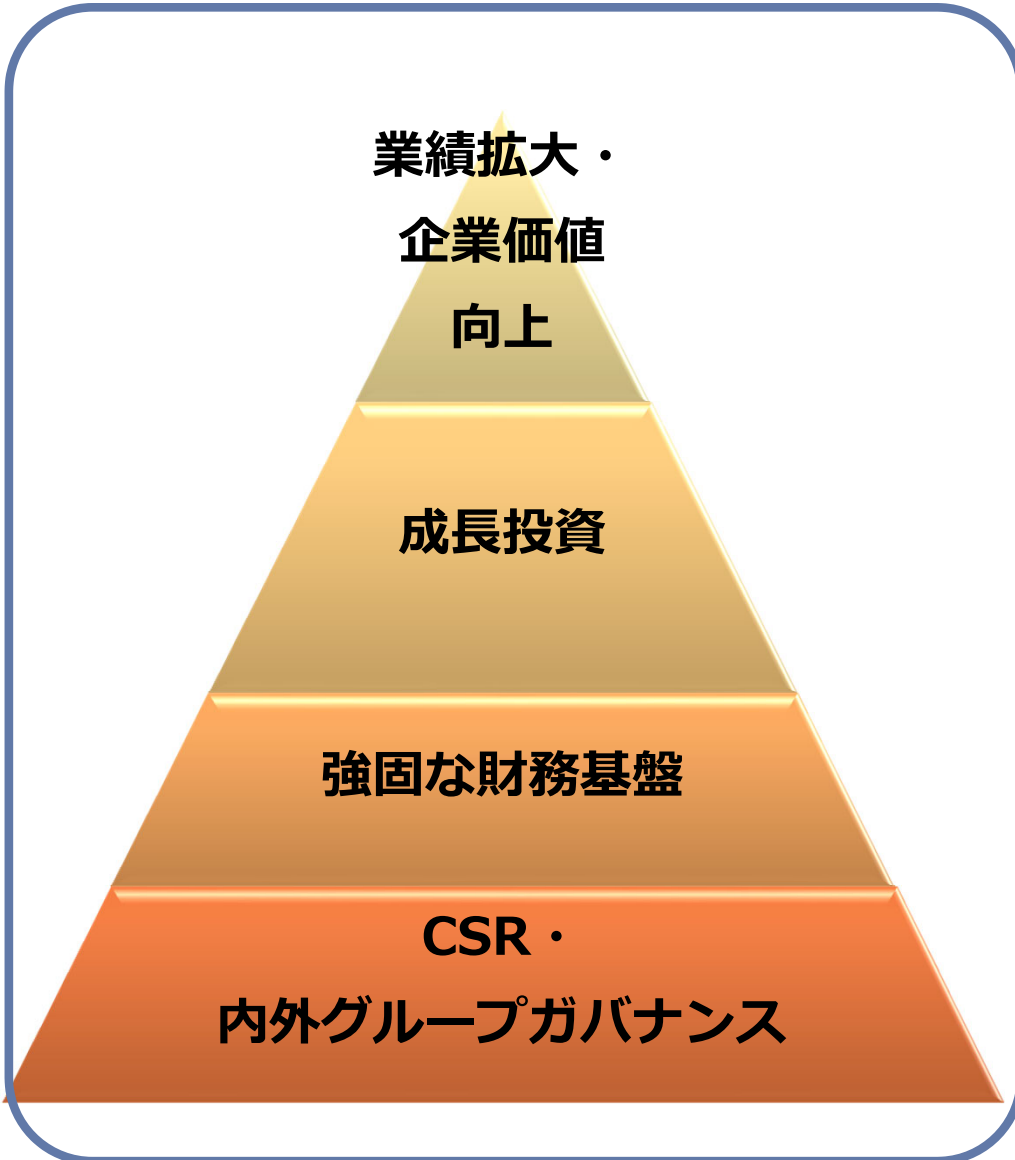
「WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう」
WIN-WIN relationships create the World's No. 1 Products

コーポレートブランド:

ACCRETECH

“Accrete (共生)” と “Technology(技術)” の合成語

企業理念実現のための枠組み



当社事業構成の特徴



The diagram consists of two main sections, each with a rounded rectangular header and a list of features:

- 半導体 (Semiconductor)**
 - 強み:**
 - 精密位置決め制御技術
 - 内製化
 - チャンス:**
 - 新技術・新デバイス
- 計測 (Measurement)**
 - 強み:**
 - 高精度・高分解能測定技術
 - 信頼性
 - チャンス:**
 - 新分野・海外需要

At the bottom, a yellow box contains a summary point:

- バランスの取れた事業構成**
 - 異なる事業領域を有することによる安定性 (需要変動影響を吸収)

全社戦略（2019年度）



技術面

製品競争力強化、対象市場拡大

生産面

生産能力拡充, 効率改善(自動化、省人化)

利益率改善

情報共有化促進
サービス, 消耗品売上の拡充

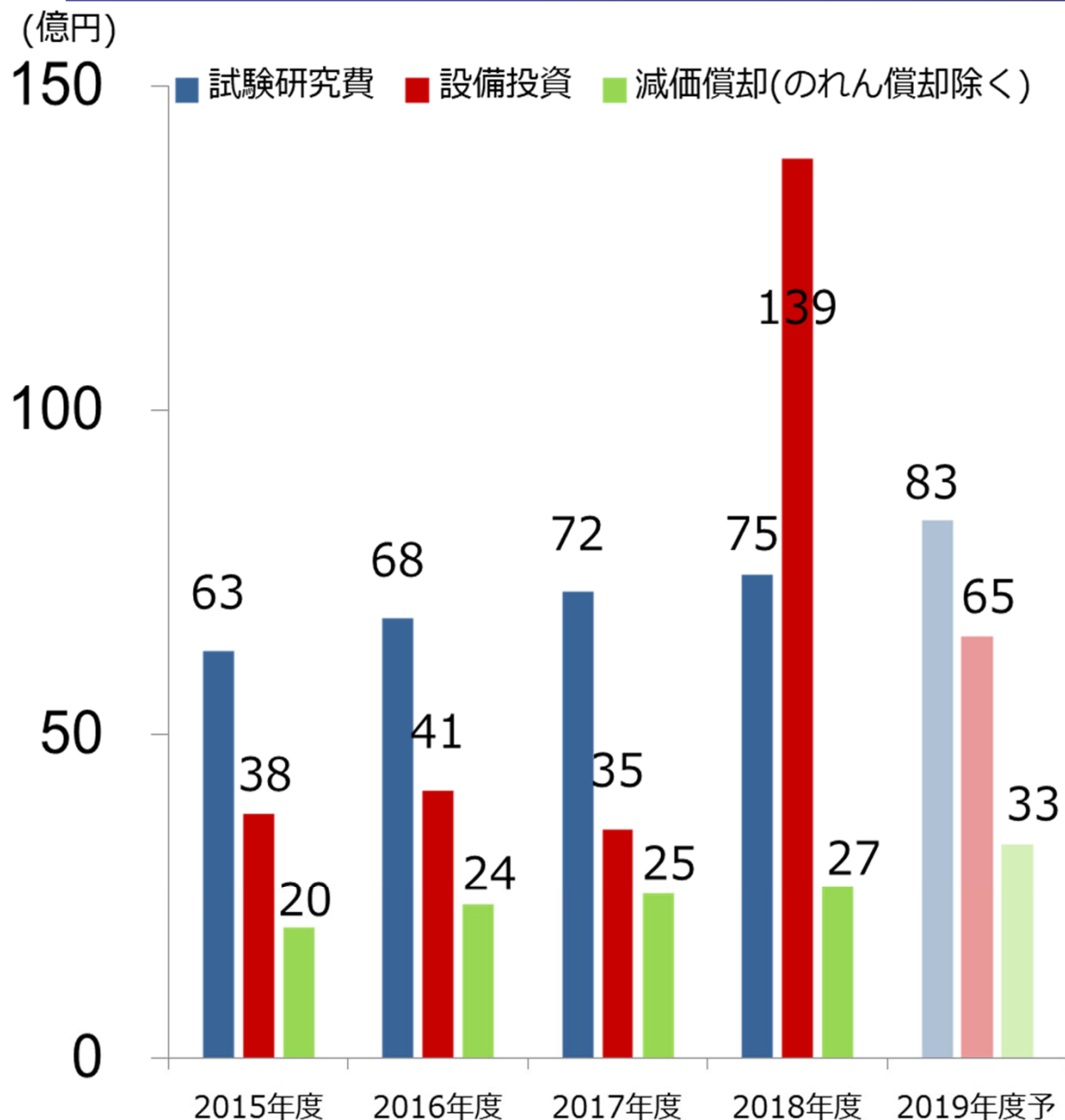
中期目標達成



持続的な成長のために

積極的にESG活動を推進し、企業価値向上を図る

試験研究費, 設備投資, 減価償却



研究開発：製品力強化・競争力維持

⇒売上高対比 10%内を目安

設備投資：能力増強、効率化等

- 能力増強：新工場
- 効率化：自動化, 加工機械投資
- アプリ対応強化：主要拠点アプリケーションセンタ

⇒中期計画内で200億円超の投資を計画

減価償却

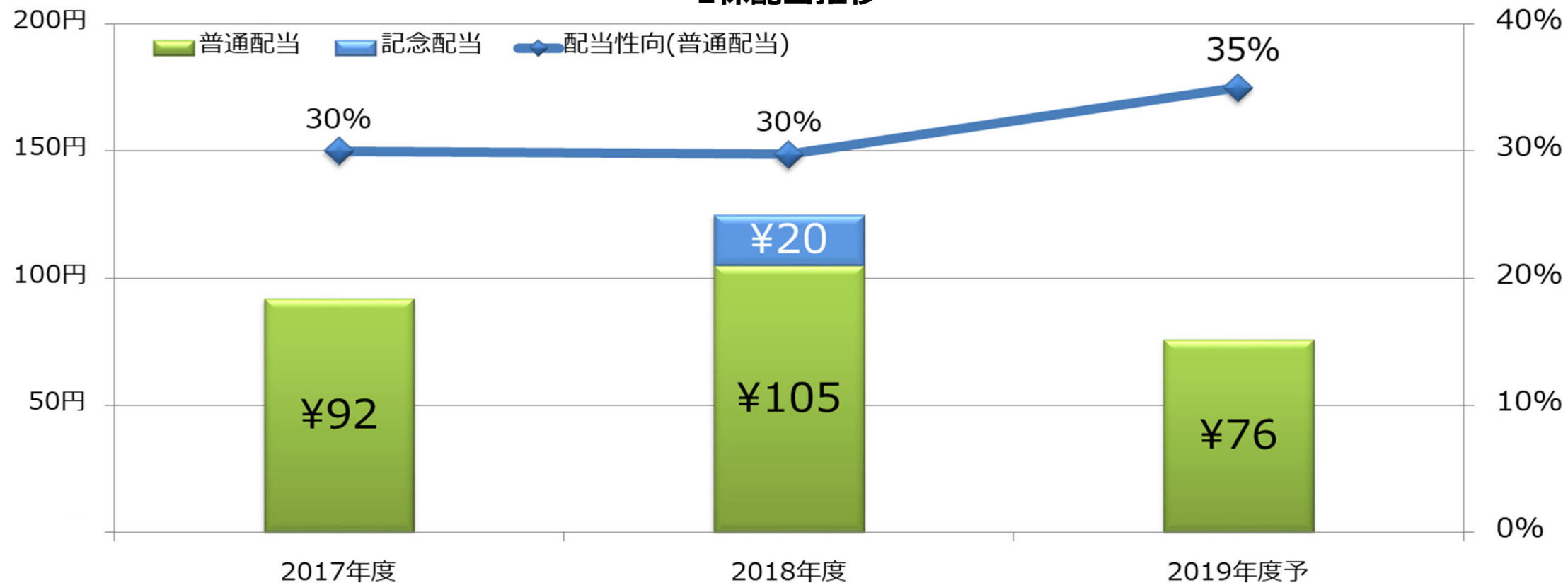
⇒ERP償却を主因に増加

財務・株主還元(2019年度)



- 財務健全性を維持しつつ、成長投資に注力
- 配当は、業績連動の利益配分を基本に連結配当性向35%を目安に実施

1株配当推移



次第

- ◆ 2018年度 業績説明
- ◆ 中期目標 初年度総括
- ◆ 中期目標 今後について
- ◆ **2019年度業績予想**
- ◆ 質疑応答

半導体

- 足許は軟調だが、急な回復の可能性もある
- ベースシナリオは“冬場の受注回復”
- 受注残があり上期生産は高水準を想定

計測

- 国内は自動車インライン測定需要中心に、堅調さを維持
- 貿易摩擦、工作機械需要変動を注視
- 充放電試験システムが売上に寄与

2019年度 業績予想



単位：億円
(配当除く)

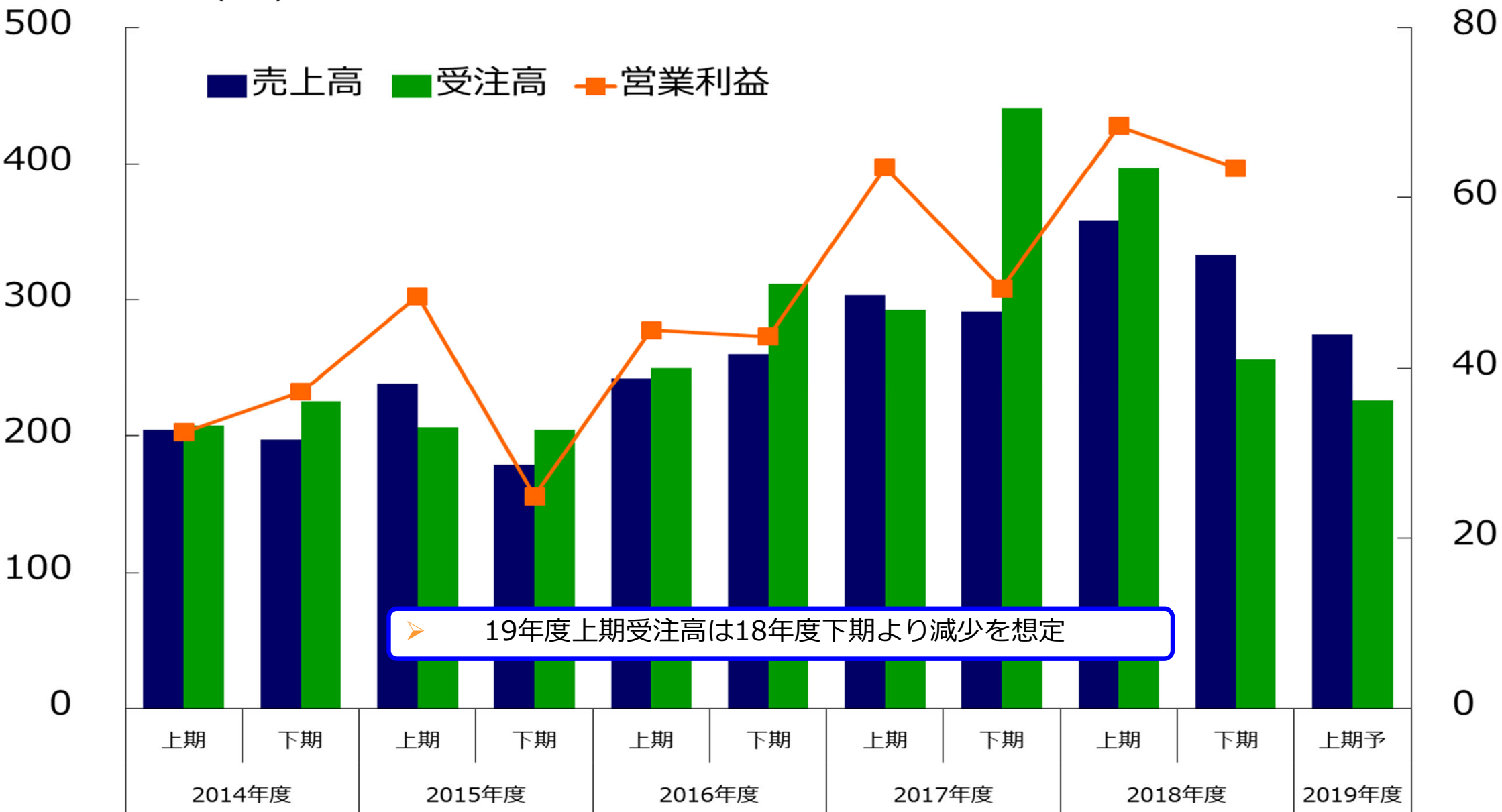
	2018年度			2019年度			
	上期	下期	通期	上期 予想	下期 予想	通期 予想	前年比
売上高	512	503	1,015	430	450	880	-13%
半導体製造装置	358	333	691	275	275	550	-20%
計測機器	154	170	324	155	175	330	+2%
営業利益	102	100	202	59	66	125	-38%
同率	20%	20%	20%	14%	15%	14%	
経常利益	108	100	208	59	66	125	-40%
当期純利益	79	68	147	42	48	90	-39%
1株配当	125円(普通配105円, 記念配20円)			76円			-49円

半導体 - 売上・受注高 見込



売上高・受注高(億円)

営業利益(億円)



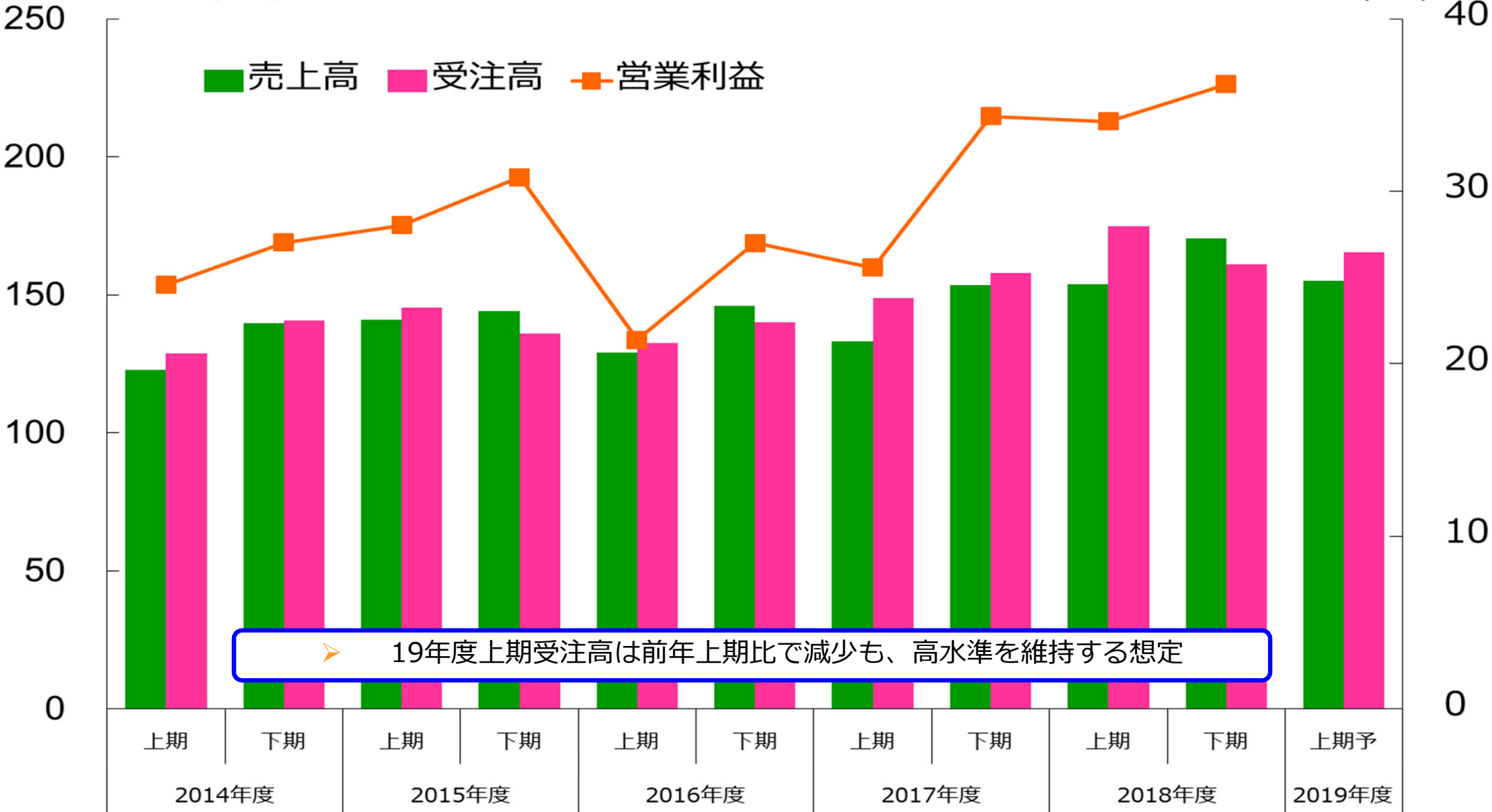
計測 - 売上・受注高 見込



売上高・受注高(億円)

営業利益(億円)

■ 売上高 ■ 受注高 ■ 営業利益



➤ 19年度上期受注高は前年上期比で減少も、高水準を維持する想定

次第

- ◆ 2018年度 業績説明
- ◆ 中期目標 初年度総括
- ◆ 中期目標 今後について
- ◆ 2019年度業績予想
- ◆ **質疑応答**



<http://www.accretech.jp/>

<https://ir.accretech.jp/ja/index.html>

